

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2772301467 | | |
| 法人名 | 桂商事株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム阿倍野(3階) | | |
| 所在地 | 大阪府大阪市阿倍野区播磨町1-20-3 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年6月13日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年9月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2772301467-00&PrefCd=27&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル |
| 訪問調査日 | 平成26年7月23日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・フロア内はバリアフリーとなっており、廊下も広くとっているため車椅子の方でも移動しやすくなっている。 ・アイランドキッチンになっているため入居者様から炊事の様子が見えやすく、十分な広さもあるため調理や片付けなども参加しやすい。 ・リビングを中心に居室が周りにあるため、入居者様の見守りがしやすい。 ・浴室には機械浴が設置されているため、ADLが低下した方でも入浴が容易である。 ・屋上にはミニキッチンとトイレが完備されている。広さも十分にあるため様々な行事を行う事ができる。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>当該ホームは、利用者が自宅と同じように気持ちを安らげるようなケアをしたいという思いが込められた「のんびりと気持ち安らぐあたしんち」をモットーに、日課にはとられず個々の利用者の希望やペースに合わせて暮らせるよう、職員は会議で意見を出し合い連携良く支援しています。利用者が徐々に重度化する中でもどのように楽しんでもらえるかを考えたり、看取りの支援では家族や医師、ホームとで話し合い方針を決め介護計画を立てチームケアを大切に取り組んでいます。また、ふれあい喫茶や野点などの地域の様々な行事に参加するとともに、地域の防災訓練に車いすの使い方を伝えに職員が出向くなど、今後は地域に根差した活動に積極的に取り組もうとしているホームです。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 各フロアの玄関に理念を掲げている。その他に、理念をもとに職員で考えた標語「のんびりと 気持ち安らぐ あたしんち」をフロアの見える位置に貼っておき、それをモットーに日々の介護を行っている。 | 法人の理念の基、開設時に職員で話し合い作られたモットーは、利用者が自宅と同じように気持ちが安らぐようなケアをしたいという思いが込められています。ホームの日課にとらわれず、個々のペースや希望に沿って暮らせるよう、管理者を中心に声のかけ方や寄り添う支援に心がけ、理念の実践に繋げています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的な交流はなく、挨拶を交わす程度である。年に数回、園児の訪問がある。地域のふれあい喫茶や夏祭り、野点などの行事にできるだけ参加するようにしている。 | 運営推進会議の際に地域の行事等の情報を聞き、地域の夏祭りや桜を見ながらの野点、ふれあい喫茶などに参加しています。ホームの夏祭りに自治会の役員を招待したり、定期的な保育園児の訪問、傾聴ボランティアの来訪等を受け入れ、利用者と交流しています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の行事や防災訓練に参加する事により、少しずつ活かしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 奇数月の第4火曜日に運営推進会議を開催し、行事の報告や事例・取り組み等を報告している。また、地域の行事の日時等を教えていただき、外出の機会につなげている。 | 会議は地域包括支援センター職員や地域福祉コーディネーター等の参加を得て、隔月に開催しています。ホームの活動や行事、事故事例等の報告を行い、参加者から地域の行事等の情報ももらったり意見交換を行っています。依頼を受けて地域の防災訓練に車いすの使い方を講習し、防災リーダーとのつながりができるなど、運営に活かせるよう取り組んでいます。 | 会議には利用者家族の参加を得ることが困難な状況ですが、会議の内容をわかりやすく伝え意見をもらいやすくしたり、行事と兼ねて開催するなど、参加してもらえるような工夫を期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 必要に応じて連絡や相談を行い、関係作りに努めている。 | 管理者が手続き等の際に区役所に出向いたり、法人本部から制度や疑問点を聞きに行くなど、ホームの状況を伝えながら助言をもらっています。また、区の施設連絡会に役所の担当者が来たり、市の福祉祭りの手伝いに行くなど、協力相談し合える関係が築かれています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 具体的な行為に関しては業務マニュアルに資料があり、常時見る事ができるようになっている。身体拘束にあたる介護は行っていない。 | 身体拘束についての外部研修や内部研修等多くの職員は学ぶ機会があり、言葉による行動の制止もないような対応に努めています。玄関やフロアの入り口は鍵をかけていませんが、防犯のためエレベーターはテンキーを使用しています。利用者の外に行きたい様子の時には一緒に外に出たり、日ごろからゴミ出しなどで外に行くようにし、拘束感を感じないよう支援しています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている | 虐待については、年に1回勉強会をしており、その資料はいつでも閲覧できるようにしている。 | | |

グループホーム阿倍野(3階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護について、年に1回勉強会を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に十分な説明を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置している。また、家族会にて意見の交換を行ったり、アンケートを実施し意見をくみ取っている。 | 家族には面会時や電話をかけた際に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞いています。個々のケアに関する要望が多く、できる限り速やかに対応しています。年に2回敬老会や新年会の行事に合わせて家族会を開催し、気軽に話せる機会を作ったり、また法人によるアンケートも行っています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1回、全体会議を行っている。また、年2回と適宜面談の機会を設けている。 | 毎月開催する全体会議や不定期に行われるフロア会議の中で、職員は意見や提案する機会があります。業務の流れの見直しや利用者のケアの統一など話し合い、提案が出された時には速やかに実施しながら検討を重ね、サービスの向上に活かしています。各フロアの責任者との面談を行い、個別に意見を言える機会も設けています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回人事考課があり、各自が目標をもって働いている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 月1回の施設内研修と、法人全体での勉強会も月1回ある。外部研修にはなかなか参加できない。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 阿倍野区内の施設連絡会や大阪市グループホームネットワークに定期的に参加している。 | | |

グループホーム阿倍野(3階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 十分にコミュニケーションをとり、信頼関係を築けるような声かけを心がけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面接時に聞き出したり、入居までにもできるだけ話をする機会を設け、何でも話せるような関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人様・家族様とよく話し合い、必要なサービスを見極め、提案している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 一方的に介護するのではなく、暮らしを共にする者として、できる事はしていただいたり、一緒に楽しんで生活できるよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 来訪時に近況報告をしたり、本人様を交えて一緒に話をしたりして、何でも話し合える関係作りに努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 昔からの友人・知人との交流は電話や面会などにより続けていけるよう支援している。 | 自宅でやりたいことを聞き、自宅へ帰る支援をしたり、地域のふれあい喫茶で知り合いと出会うことがあります。また以前住んでいた所の近所の方が面会に来て居室でゆっくり寛いでもらったり、友人との電話のやり取りができるように支援するなど、今までの関係継続に努めています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者同士のコミュニケーションが難しい場合は職員が間に入りコミュニケーションがとれるよう支援している。 | | |

グループホーム阿倍野(3階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居されてからは連絡が途絶える事がほとんどだが、気軽に来て頂けるような声かけはしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々のコミュニケーションの中から希望・意向等を聞きだせるように努めている。困難な場合は本人の立場になって考えている。 | 入居時に希望や思いを家族に書面に記入してもらい、入居後は日々職員が利用者との関わりの中から思いに繋がるような情報を記録に残し、思いや意向を把握しています。意思疎通の困難な方の表情や様子を見ながら好みや楽しいことが理解できるように努めています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 面接時の聞き取りや資料、日々の会話や家族様とのやりとりから把握できるように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 身体状況・精神状態を常に観察し、様々な状況を把握するようにしている。また、それをケース記録に記入し職員同士で共有できるようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人様の言動や家族様の意見や意向をもとにケアカンファレンスを行い介護計画を作成している。 | 利用者の思いや家族の希望、アセスメントを基に介護計画が作成されています。日々計画にそって実施状況を記録し、毎月利用者の状況を職員がまとめ、計画作成担当者が評価を行い、3か月ごとに見直しています。見直しに当たっては、身体的状況を中心にアセスメントを行い、家族に意向を聞き往診時の情報等を得て担当者会議を開催しています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録や申し送りノート等で情報の共有に努めている。個人記録は本人様の言動をできるだけ日々記入するようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 状況に応じて柔軟な対応ができるよう心がけている。 | | |

グループホーム阿倍野(3階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源として、地域の行事(ふれあい喫茶・夏祭り等)にできるだけ参加していただくようにしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 全員訪問診療を受けておられる。状態や必要に応じて家族様に立ち会って頂く事もある。 | 今までのかかりつけ医を継続できることも伝え、受診は基本的には職員が支援しています。ホームの協力医は月に2回の往診があり24時間連絡し、対応してもらえる体制が築かれています。受診結果は面会時や電話で伝えたり、協力医から書面で送られています。必要時には歯科や精神科等の往診を受けることもあります。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回訪問看護師による健康管理を行っている。日常の相談は気軽にできるようになっており、必要に応じて看護師から医師に連絡してもらっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 協力医療機関の担当者と密に連絡をとるようにしている。また、入院中に訪問することにより、情報の収集・交換をするようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に看取り対応できる旨を説明。ターミナルの状態になられた時には終末期の対応について、医療・家族様・事業所で十分に行い、ケアプランを作成し対応している。 | 入居時に重度化や終末期の対応についてホームの指針を基に説明しています。実際に重度化し医師から家族に状況を説明され、ホームでの看取りを希望される場合には、家族と医師、ホームとで話し合い方針を決め看取りに向けての介護計画を立てチームで支援しています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の対応については勉強会でもとりあげており、マニュアル化している。定期的な訓練は行っていない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 現在、地域との協力体制については検討中である。、年2回の避難訓練を実施している。 | 年に2回の消防訓練の内1回は消防署の立ち合いの下実施しています。通報や水消火器による初期消火訓練、避難誘導のシミュレーション等を昼夜想定し実施しています。地域の防災訓練には職員が参加しており、今後はホームの災害時の協力体制に繋げていきたいと考えています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 敬語を基本としているが、状況に応じた対応をしている。言葉遣いが乱れていたら、都度指摘している。また、プライバシーを損ねないような声かけ・対応を心がけている。 | 利用者の尊厳を守り敬語での対応を基本とし、信頼関係が築かれたときにはその方に合わせ親しみのある言葉かけをすることもあります。排泄の支援時には周囲にわからないよう配慮しています。不適切な対応があった時にはその都度注意し、今後接遇マナー研修も行っていきたくと考えています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 意思表示ができる方については聞き出せるよう心がけている。困難な方については、できるだけ本人様の思いをくみ取るようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な一日の流れは決まってはいるが、臨機応変に対応できるようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2ヶ月に1回、訪問美容にてカットしていただいております。希望があればパーマやカラーもしていただいております。衣類については、ご自分で選ぶことができない場合は職員で用意して確認していただいております。女性については行事の時などに化粧をしていただくこともある。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | できる方には片づけ等手伝っていただいております。職員も一緒に、楽しく食事ができるような環境作りに努めている。 | 業者からメニューとレシピ、食材が届けられ、食材の皮をむいたり味見などのできる利用者と一緒に食事を作り職員も同じ食卓に着き食事をしています。行事食では献立から考えて作ったり、敬老会には家族と一緒に食事を楽しんでもらっています。フロアごとに全員で外食に出かけたり、個別に出かけるなど状況に合わせた支援をしています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ミキサー食・ゼリー食・ソフト食など個人に合わせた形態・量で提供している。できるだけ水分も摂っていただくよう声かけし、水分量・食事量のチェックも行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアは毎食後していただいております。本人様の状態・能力に合わせて声かけ・見守り・一部介助・全介助にて行っている。 | | |

グループホーム阿倍野(3階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | できるだけトイレで排泄していただけるよう、一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導・パット交換をしている。 | 立位の取れる利用者はトイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を用いて個々のタイミングで誘導や介助をしています。利用者の仕草や様子を観て誘導することもあり、失敗を減らせるよう支援し、紙パンツを使用していた方が失敗がなくなり日中布の下着で過ごしている方もいます。カンファレンス等で排泄用品や支援の方法を検討しながら自立に向けて支援しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々の排便状況を把握し、主治医指導のもと下剤の調整を行っている。日頃から水分を多く摂っていただいたり、トイレに行かれた際に腹部マッサージをしたりしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 機械浴の方・一般浴の方と分けて、週3回入浴していただいている。平日(月～土)の午前中は毎日入浴できる。 | フロア毎に入浴できる日を設定し、週に3回入ってもらえるよう支援しています。機械浴の設置もあり重度の方も湯船に入ってもらうことができ、希望があれば毎日の入浴にも対応しています。拒否される利用者には、同性介助や声のかけ方、誘導の方法など、個々の利用者に合わせて対応をしています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | その時の状態・状況に応じて、居室やソファで休んでいただいている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員全員が全てを把握しているとは言えないが、薬情を確認し理解するよう努めており、また、都度説明したりしている。服薬に関しては、必ず職員が飲み込むまでを確認している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事の手伝いやレクリエーションへの参加・外出などで気分転換が図れるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | その日の希望ですぐに外出することは困難であるが、近隣のスーパーへの買物・散歩等にはできるだけ行けるように支援している。家族様の協力により外出される方もいる。 | ホーム周辺を散歩したり、車いすの方も日用品を買いに行くなど、出かける機会を作っています。出かけられない時には、広い屋上でお茶を飲んだり外気浴しています。家族の協力を得て外食に行ったり、希望を聞き個別外出の支援をしています。 | |

グループホーム阿倍野(3階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的には金庫にておこづかいを預かっている。希望される方については少額所持していただいている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙や電話については制限はしていない。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 壁などに季節に合わせた飾りつけをしている。空調による温度調節をしたり心地よく過ごしていただけるよう配慮している。 | 明るく広い共有空間にはソファを多く配置したり壁に添ってベンチが設置してあり、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう工夫しています。アイランドキッチンで調理している様子が見え、匂いが漂い家庭的な雰囲気があります。掃除や加湿器等による湿度調整、利用者が心地よく感じる温度管理に気を配っています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室前のベンチがあり、リビングにはテーブル席の他にソファもある。テレビを観たり、職員や入居者様同士でお話したり、思い思いに過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | できるだけ以前使用していた家具や、使い慣れた物を持ってきていただき、本人様が以後ごちよく過ごせるようにしている。 | 居室にはトイレや洗面所、クローゼットが設置してあり、入居時に使い慣れたものを持ってきてもらうよう説明し、利用者の希望も聞き持参してもらい、筆筒やテレビ、椅子、テーブル等を家族とも相談しながら設置しています。自宅で行っていた字の練習帳や大切な位牌などを持ってきている方もいます。洋室と和室とがあり空いている時には選んでもらうことができ、利用者と一緒に掃除をすることもあります。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | フロア全体がバリアフリーになっている。リビング・廊下などの共用部分や、居室のトイレなど、必要な場所には手すりがついている。床はクッションフロアになっている。 | | |